

報告

やまぐち ちづこ
山口 千津子

プロフィール

公益社団法人日本動物福祉協会調査員獣医師
環境省動物愛護管理のあり方検討小委員会委員
東京都動物愛護推進協議会委員
仙台市動物愛護推進協議会委員

東日本大震災における動物救護活動報告（後編）

それでは、私のほうから引き続き、宮城県、岩手県での動物救護活動をご報告させていただきたいと思えます。まず、宮城県のほうからお話しさせていただきます。石巻ではいち早く、被災直後から地元の獣医師の先生方が被災した動物を預かっておられました。ただ、1つの動物病院では預かれる数というものも限られてまいります。それでも預かってほしいという方々、それから、預からなければどうしようもないという動物たちがたくさんいるということで、獣医師の先生方が一緒になって石巻地区動物救護センターを立ち上げられました。

これが石巻動物救護センターですが、最初は本当にトレーラーハウスみたいなものを置いて、その前にテントを置いてという簡単な施設だったんですが、私が何回か行って、行くごとにどんどん発展して、プレハブができ、プレハブの数が増えというふうに、獣医師の先生方が頑張ってお動物を保護されて、かつ、ボランティアの方々もたくさんお手伝いに来られておられました。



石巻地区動物救護センター ボランティアの活動



これは、最初は石巻市の下水道局の所で施設を運営していたんですけども、そこから移動せざるを得なくなりまして、高架の下に新たに建てました。今度は2階建てのプレハブで施設を建てて運営しておられます。いつもお伺いしても、本当にたくさんのボランティアの方々が、精力的に動物の世話をしておられました。



石巻地区動物救護センターに保護された猫

ここは、その中の猫のお部屋でございます。猫も犬もたくさん、百数十頭、この施設では保護されており

まして、常時、新しい飼い主さんを求めておりますし、私がお伺いしたときにも、飼い主さんが、とにかく動物と暮らせる所にはいないけれども、しょっちゅう会いにこられて、ご自分でお世話をされたり、お散歩をされたりというふうにおられました。



石巻地区動物救護センターに集まった大勢のボランティア（ゴールデンウィーク）

これはゴールデンウィークのときにお伺いした映像ですけども、1日に大体50名から70名ぐらいの方がお手伝いに来られました。受ける側もとてもあり



がたいのですが、70名の方がいらっしゃると、「この方はここ、ここ」というふうに手配もきちんとしていないと、ちょっと混乱が起こったりするのですが、それでもとってもありがたく思います。これだけの人が、ゴールデンウィークには来られていたにもかかわらず、ゴールデンウィークが去りますと、途端にボランティアさんの数が、10人、20人と、ガクンと減ってしまいます。でも、動物はそこで毎日暮らしておりますので、やはり人手がないと適切な世話はできないんですね。少人数の5人や10人で、百数十頭の犬や猫を適切に世話をすることは無理です。ですから、たくさんの方に来ていただきたいというふうに、私も思っております。

する場所を設置しておられます。



宮城県被災動物保護センターの様子

これは、仙台市に割と近い、宮城県内にあります。夏だったのですが、少し山側に寄った所ですので、割と風は通る所で、宮城県被災動物保護センターという名前が付いておりまして、ここにもボランティアさん、獣医師の方、雇用されたスタッフの方が、毎日ここでお世話しておられます。



日中は屋外でのんびりと過ごす

ここは、ケージの中です。昼間はできるだけ外に出そうということで、風が通る所で、日陰で涼しくして、どてっと寝るように気を配っておられます。結構、わんちゃんがのんびりとしている様子も見受けられました。

といっても、やっぱりこの子たちは被災しておりますので、保護されたときには、もうぎりぎりの状態で保護された子たちもいますので、その状態に合わせて、フードを軟らかいものから順番に食べさせてあげたりしても、なかなか太るところまではいかない子たちもおりますし、獣医師の先生方は、その状態に合わせて治療もケアもやっております。

仙台市は宮城県の中でも政令指定都市で、別ですので、仙台市は仙台市として、救護本部を立ち上げておられます。仙台市のほうも仙台市および仙台市獣医師会、および2つの動物愛護団体が入って、仙台市動物救護本部というものを作っておられます。その方々が協力して、動物を預かり、動物の世話をし、そして、避難所および今では仮設住宅ですけれども、仮設住宅で動物を飼っていらっしゃる方々の支援をしておられます。



仙台市動物管理センターに保護されている動物の一覧

これは仙台市動物管理センターに保護されている動物で、こういう所から保護されておりますというのが、写真付きで特徴を全部書いて一覧表を作り、ホールの所に掲げられておりました。いつ飼い主さんが来ても、一目で分かるようにしてあります。



仙台市動物管理センターに掲示されている行方不明の動物一覧

残念ながら仙台市も、海に近い部分は津波で相当被災致しました。失踪犬と名前が振ってありますが、行方不明の動物は市に登録します。そして、その一覧を



石巻地区動物救護センター 犬の散歩風景

これは、ボランティアさんが、1頭、1頭、散歩をされている様子です。やはり、緊急時といえども、こうやって、毎日、朝晩、散歩させることによって、その人とのコミュニケーションが取れます。もしも、飼い主さんが分からない時、あるいは飼い主さんがいらしても、やはりご自分の生活について今後のことを考えれば、手放さざるを得ないということになり、新しい飼い主さんを探すことになった時に、こうやって人とコミュニケーションの取れる犬から、先にもらわれていくというふうに思うんですね。人を見て、「ウーッ」って言うわんちゃんは、やはり少しずつ敬遠されていきますので、できるだけ、新しい飼い主にも迎えられやすいようにというふうに、ボランティアさんたちは頑張っておられました。

また別に、宮城県には、宮城県動物愛護センターというのがありますが、そこでも、被災動物の保護を

ここに張ります。本当にもう慌ててやっていますから、いちいちコンピューターでやっていられないので手書きです。みんなが一生懸命やったというのは、これを見てお分かりいただけると思います。特に、保護されたときでも、迷子札が付いている動物の住所が分かりますと、「えっ！こんな遠くから来たのか。」ということで、失踪犬届も相当遠いところからも届けられております。



仙台市動物管理センター 被災動物の譲渡会会場でのひとコマ

これは譲渡会でのひとコマです。

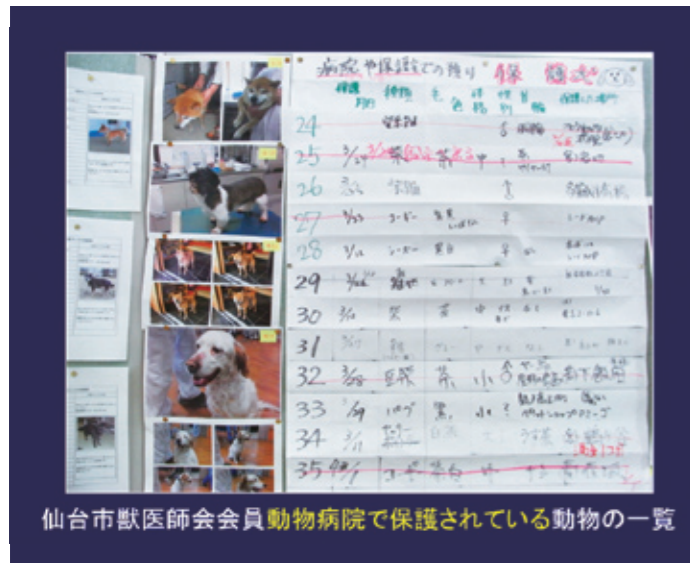
岩手県でも動物救護本部を立ち上げられました。岩手県、岩手県獣医師会。10の動物愛護団体が一緒になって救護本部を立ち上げておられまして、その民間の動物愛護団体の中に施設を持っているところがございますので、新たな被災動物用の施設というのは立ち上げておられません。ですけれども、病院とこういう動物愛護団体が手分けをして預かっておられます。



岩手県と協働で活動している
民間ボランティアの
被災動物保護シェルターに
保護され飼い主の迎えを
待つ犬



岩手県と協働で活動している
民間ボランティアの
被災動物保護シェルター
快適に整備された猫舎で
作業するボランティア



仙台市獣医師会会員動物病院で保護されている動物の一覧

これは仙台市獣医師会会員病院で保護されている動物の一覧です。みんな連携を取りながらやっているんですね。

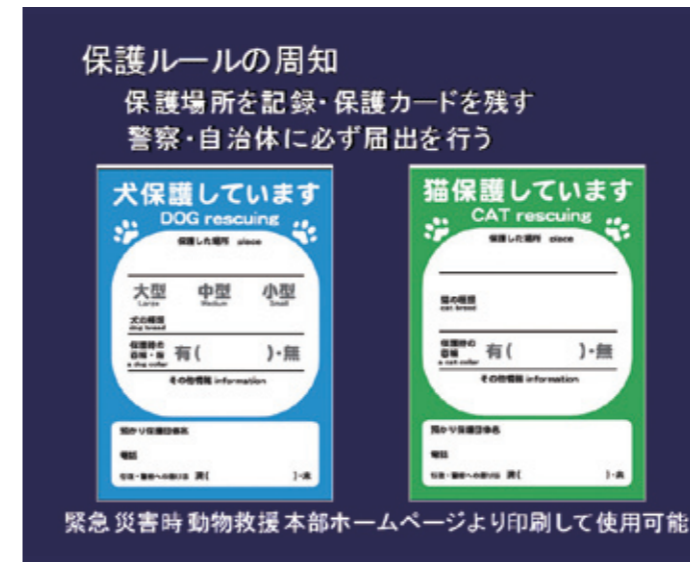


仙台市動物管理センター 被災動物の譲渡に関する説明会

5月になれば、仙台市動物管理センターでも、飼い主が分からない動物、あるいはもう「新しい飼い主を見つけてください」といわれた動物については、新しい飼い主探しをしております。いろいろな条件があるのですが、その1つに、もしも元の飼い主さんが見つかって、継続飼育を望まれた場合はお返ししますという条件が付いて、譲渡をしておられます。

この子も、1つの団体で預かって飼い主の迎えを待っているところです。猫も、この中でかなり快適に過ごせるように一生懸命工夫をしておられました。

今までずっと、ボランティアさんが一生懸命やってくださっているんですけども、先ほどのお話の中でもありましたが、20キロ圏内にたくさんの動物が残されていました。その動物を救うために、いろんな動物愛護団体の方が中に入って、保護してくださったんですね。保護してくださるのはとてもありがたいです。



緊急災害時動物救援本部ホームページより印刷して使用可能

ありがたいのですが、ただ、もう1つ追加していただくとさらによいと思います。それは、飼い主さんが帰ってこられたときに、いつでも連絡が取れるように、こういうカードを作って、ホームページから印刷して使用可能にしましたが、いつでも飼い主さんと会えるように工夫してくださいねと、ボランティアさんにはお伝えしております。



飼育サポート情報
熱中症予防チラシの作成
ホームページから
印刷し
誰でも配布が可能

もう1つは、先ほどのお話にもありましたが、熱中症です。これは本当に、車の中で動物がいるということは、夏であれば、暑くてとても過ごせる場所ではありませんので、これもダウンロードして使えるようにしていただきました。

今回、保護をしたり、いろんなお手伝いしているうちに、様々な問題があるなと感じたことを少し挙げさせていただきます。当然のことですが、水や餌は日が経つにつれてどんどん欠乏していきます。それから、やはり動物の避難場所の確保が困難でありました。

それから、獣医さんにかかっているけど、避難した先で獣医療を受けられないという獣医療の不足。そして、先ほどのお話にも「ガソリンの不足」というお話がありましたけれども、被害が大きければ大きいほど、支援物資を届けたいけれどなかなか届かないという問題が起こりました。



それから、治療が中断されてしまい、大規模災害であればあるほど、なかなかすぐに継続治療が受けられないという問題がありました。今後の災害では、こういうことをしっかり考えて継続治療が受けられるようにできればなというふうに思います。

防災は普段からの準備が大切ということは、人間のほうにいつも言われていますが、動物についても、普段からの準備が大切だということです。動物を飼っていらっしゃる方は、ご近所のコミュニケーションをよくしてください。発災時、時間帯によっては家にいるとは限りませんので、その時に、ご近所同士がうまく

コミュニケーションが取れていれば、少しでも助かることがあるかもしれません。

それから、避難所までの場所やルートをしっかり確認しておくということと、家族の役割分担を話しておくということも大切だと思います。それから、普段からの飼い主の動物の健康管理。それから、適切な飼育管理。しつけとかも大切です。同行避難できる頭数にしておいてください。1人で30頭も同行避難できません。それだけの頭数や、ワニとかも同行避難できませんので、数や種類を考えて普段から飼育してください。



全国の自治体でも、こういういざという時のためにということで、ペットの防災避難に関して、さまざまな取り組みが開始されております。

災害時の動物救護活動の課題

動物が苦手な方への配慮
心に深い傷を負われた方への配慮

動物救護活動は、
すばやく、静かに、
確実に。

それから、災害時の動物救護関係の課題として、私たちは動物のことを考えておりますが、やはり、同じように人間も被災しておりますので、ぜひ、心に深い傷を負われた方への配慮等もしながら、動物の救護にあたりたいと思っております。

災害時の動物救護活動の課題

情報発信の方法の見直し
インターネットの効果と限界

効果大 → 被災地外
効果小 → 被災地

避難所への
ポスター掲示やチラシ配布など
紙ベースでの広報の
重要性の再認識

被災保護動物リストを作る会

緊急災害時 同行避難袋チェックリスト

ちゃんの健康データ

動物の写真を 入れましょう

社団法人 日本動物福祉協会

避難袋のチェックリスト

動物の健康情報

健康状態について

また、ペットの避難袋は人間の避難袋と同じように用意してください。私どもの協会は、チェックリストを作っております。これは日本動物福祉協会のホームページから取ることができますので、ぜひご利用いただければと思います。

今回、ネットでいろいろ配信していますが、やはりもうインターネットの世界ですからネット重視なんです。被災地ではネット環境にないことが多いですね。ですから、やはりアナログ、紙媒体というのがとても大切だなというふうに思いました。



それからもう1つ、今回は、海外の動物愛護団体が、日本のこの東日本大震災での動物救護活動に大変注目しております。また、たくさんのお金を海外の動物愛

護団体から、緊急災害時動物救援本部にもご寄付いただいております。ぜひ誇れるような活動に、まだまだこれから続けていかなければならないのですが、恥じないような活動にしていくべく頑張っていきたいと思っております。そして、1日も早く被災地が復興しますように、人と動物が安心して暮らせる日が早く戻ってきますようにと祈って、私たちの報告は終わらせていただきます。ありがとうございました。

